

登壇

司会：時間になりましたので、これより株式会社フォーカスシステムズ、2025年3月期中間期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中、決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

最初に、出席者をご紹介します。代表取締役社長、森啓一。代表取締役副社長、三浦宏介。常務取締役、後藤亮でございます。

開催にあたり、各種お願い、ご連絡事項を申し上げます。本説明会は決算報告の後、質疑応答のお時間を設けております。ご質問のある方は、質問事項をコントロールパネルのQ&A機能よりご入力ください。質疑応答が始まる16時頃まで受付いたします。お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合もございます。あらかじめご了承ください。その他、何かお困りごとがございましたら、Q&A機能にてお知らせください。

それでは、代表取締役社長、森啓一よりご報告させていただきます。

森：皆さん、こんにちは。株式会社フォーカスシステムズの森でございます。本日はご多用の中ご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は2025年3月期中間期決算の業績についての概要とともに、財務面の状況、今期の業績予想をご報告いたします。

まず本日の流れですが、この1、2、3、4についてお話しさせていただきたいと思っております。

最初に結論を申し上げますと、今年度2025年3月期の中間期までフォーカスシステムズは計画どおりに問題なく推移している、というのが本日の結論となります。そうしましたら、具体的にその状況についてお話しさせていただきたいと思っております。

まず、中間期決算サマリーです。

売上高は過去最高を更新いたしました。各利益は前中間会計期間からの反動増となって、計画どおりの案件進捗によって増益となっております。

昨年度は皆様もご存じのように不採算案件が発生した影響で、営業利益、経常利益、純利益が2023年の3月期に比べてかなりマイナスになった状況にありましたが、その不採算案件も無事3月末で終わりまして、今年度からは計画とどおりのスタートということで、今のところ大きなトラブルもなく順調に推移しております。

その結果、売上高に关しましては 159 億 6,200 万円、営業利益が 8 億 1,800 万円、経常利益が 8 億 3,400 万円、純利益が 5 億 6,900 万円という結果となり、昨年同期に比べていずれも、右の欄にあるように増減率で言いますと、売上高が 5.3%、営業利益、経常利益、純利益とも 20%以上 30%弱の増加となっております。

次に、通期の計画に対してどれぐらいの進捗であるかを表したのが次のスライドになります。

こちらをご覧くださいと、それぞれ半期が終わって、通期から比べると進捗率が 50%にいていませんが、いずれもこれは計画どおりに推移している数字であります。

昨年度、先ほどもお話しさせていただいたとおり、不採算案件の発生ということで、下期に本来であると営業等をかなり手厚くするんですが、昨年度に関してはとにかくこの不採算案件を無事終わらせて計画に少しでも近づけようということで、会社が一致団結して進めた結果、思ったとおりの営業案件の確保がちょっと苦しくなったということで、今期に入ってから営業という面もあって上期に関してはそれぞれ進捗率はご覧の表のとおりとなっております。ですので、今年度に関しては、ここにもありますように下期に偏重する見込みで、いずれも計画どおりに推移しております。

続きまして、セグメント別の概況です。

まず、公共関連です。

公共案件は全体的に非常に堅調な推移をしております。一部で法人案件に進捗の遅れが発生したことで、このセグメント利益に关しましては昨年同期比を下回っている形になってはいますが、特に問題視はしていません。

公共関連事業セグメントでは、法人向けの案件は大体売上高で 6%程度と非常に大きな割合ではないんですが、今回その法人案件の進捗が遅れた原因としては、期の途中で優秀な有識者が離脱した影響で体制組み直しにコストが若干かさんだということで、それが理由となっているという報告を受けております。

しかし、この案件は既に無事に問題なく終了していますので、公共関連は最初にも申し上げたとおり非常に好調ですので、セグメント全体としては下期に向けてまたかなり増加が期待できるのかなと考えております。

続きまして、エンタープライズです。

こちらは、同じようにセグメント利益がマイナスとなっています。なぜマイナスとなったかというところ、ここにも書いてありますように、開発フェーズの比率の低下が収益に影響という形になってい

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ます。つまり、開発フェーズというのは利益率が高い傾向がありまして、その利益率の高い請負開発フェーズの割合が上期においては低かったと。その一方、保守・運用フェーズの割合が高かったことで、売上に関しては増加、セグメント利益に関しては減少という結果となっています。

ただ、ここに書いてあるように、intra-mart、Biz f が非常に堅調に手堅く推移していますので、こちら問題なくいっております。ですので、こちら下期に向けて計画どおりという形で増収増益が期待できるのではないかなと思っております。

次が、広域ソリューションです。

こちらは昨年度、不採算案件が発生した部門です。ですので、利益に関しましては、ここに記載のとおり前期に生じた不採算案件の反動増に加えて既存案件が計画どおり進んだという形で、大幅にV字回復で利益は増加している形になっております。

ただ、一方で、この広域ソリューションに関しては、売上高が若干ですがマイナスとなっております。これは前期不採算案件の影響で今期に向けた営業が計画どおり進まなかった形で、また参画を見送った案件もあったことで、スタートに若干の出遅れがあったということです。ただ、その影響は軽微であって、今期計画に対しては順調に推移していますので、下期に対して順調にこちらのほうも推移すると見ております。

最後がイノベーションです。

こちらはインフラ関連が堅調ですが、前期の高収益案件の反動を受けて、売上高はプラスになっていますが、セグメント利益はマイナスとなっております。

こちら、先ほど言いましたように高収益案件がいくつかあったんですが、昨年度に関しましては官公庁案件や統合業務プラットフォーム案件がかなり利益に昨年度は下期に寄与したんですが、こちらが終わったことで若干、上期に関してはセグメント利益がマイナスとなっております。

以上がセグメントの概要です。特に昨年度からセグメント利益は中間期に比べるとマイナスにはなっていますが、先ほどの広域ソリューションを除いてはマイナスになっておりますが、こちら問題なく計画どおりですし、広域ソリューションのほうも昨年度の不採算案件がなくV字回復で順調に推移している形ですので、会社全体としても特に問題ない形で中間期を迎えられたということになります。

続いて、財務状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

貸借対照表をこちらに記載させていただいておりますが、こちらも特に大きな推移や特にお話しすべき特別な案件はありません。

現金及び預金も、後ほどキャッシュ・フロー計算書でもありますが、順調に増加しておりますし、前事業年度に比べては売掛金がマイナスになっていますが、これも例年の傾向として特に問題なく推移しております。

また負債も、賞与引当金の増加、消費税の減少、買掛金の減少、未払法人税の減少とありますが、こちらも特に問題がない流れとなっております。

全体としては繰越利益剰余金も 8,500 万円ほど増加している形ですので、会社の財務体質も問題なく良くなっていると言えると思います。

続いて、純利益の増減分析です。

こちら昨年度の第 2 クォーター、中間期に比べて 1 億 3,000 万円ほど純利益が増えております。これは通常の営業活動による売上総利益の増加が主な影響でして、それに対して販管費、法人税等の増加で若干マイナスになっておりますが、それでも問題なく 1 億 3,000 万円の純利益の増加となっております。

次は、キャッシュ・フローです。

キャッシュ・フローも見ていただくとわかるように、昨年度の 3 月末、期首に比べて 10 億円ほど現金及び現金同等物が増えております。こちらは営業の本来のキャッシュ・フローが増加し、投資キャッシュ・フロー、財務キャッシュ・フローが若干マイナスで、特に問題のない流れとなっております。

次が、業績・配当の予測です。

こちら業績予想は維持という形で、今期末は売上高に関して 325 億円、営業利益 21 億円、経常利益 21 億円、そして当期純利益 14 億 3,000 万円という計画を出させていただいております。

配当金も昨年度と一緒の年間配当額 38 円、そして今回の中間配当で 6 円、期末配当で 32 円という配当を予想しておりまして、6 円配当については先日の取締役会で決定しております。

また、配当性向も 40.2%で 40%を超える配当性向を出しておりますので、こちらも特に問題なく順調にいらしていると思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

また、当然、配当を増やす話はないのかということに関しましても、利益がまたさらに伸びるようであればそちらも今後考えていくというふうに思っております。

以上になるんですが、特に今期、最初にもお話ししたとおり、大きな問題・トラブルもなく順調に会社は推移しております。昨年度の不採算案件等を受けて、今後そういった大きな不採算案件がないようにと、会社全体としても見積もりの精度を上げるとかそういった取組みもかなり厳しくやっております、そういった面では今期は特に今のところ何もなく推移しているということで、またこのまま順調に下期を通して会社を運営していければいいなと思っております。

ですので、今日は、簡単ではありますが、中間期の決算説明会は以上とさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑応答に移ります。ご質問のある方は Q&A 機能にてご質問をお寄せください。では、そちらをお待ちしている前に、事前質問が来ております。ご紹介いたします。

質問者 [Q]：内部留保としての現金が増えているようですが、使用用途は考えていらっしゃいますか、というご質問に回答いたします。

森 [A]：はい。内部留保としての現金なんですけど、この半年で約 10 億円増えていますねということで、それに対しての具体的な使用用途は考えていますか、という質問です。

特に、今、中間期末で大体キャッシュは 65 億円ほど会社にあります。ただ、この 65 億円が会社に不測の事態が起きたときに多い金額かということ、私自身はそれほどまだ安全と言える数字ではないと思っております。ですので、新たな事業への投資は、今後そういった話が出てきたときには柔軟に対応していくということは従来から変わっておりませんので、そういった話が出てきたときにはキャッシュもどんな形で有効に使うかを話し合いながら使っていきたいと思っております。

ですので、今の金額が特別過剰な金額であるという認識は私自身は今のところ持っておりません。

また、当社では、より人的資本や成長分野の投資というものを常に念頭に置いておりますので、今後そういった話が来たときには、そちらにはお金をきちんと計画立てて使用していきたいなと思っております。以上です。

司会 [M]：その他、ご質問はございませんでしょうか。ご質問よろしいでしょうか。ご質問がございませんので、質疑応答を終了いたします。それでは、これにて株式会社フォーカスシステムズ、2025 年 3 月期中間期決算説明会を終了させていただきます。

また、この後、画面が切り替わります。3 分程度のアンケートにご協力をお願いいたします。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

